



人間らしく働くための九州セミナー in 北九州

YouTube配信

参加費無料

事前登録必須

コロナ禍と働く人びとの健康権

10月9日(土) 13:00~17:30

記念講演①

「ジェンダー視点でみるコロナ禍における労働法の課題」

講師／浅倉 むつ子 氏 (早稲田大学名誉教授)

パネルディスカッション①

コロナ禍の働かされ方・働き方の変化

特別企画 アスベスト問題はこれからだ

10月10日(日) 8:50~12:30

記念講演②

「パンデミックを生きる指針
— 歴史研究のアプローチ」

講師／藤原 辰史 氏 (京都大学准教授)

パネルディスカッション②

エッセンシャル・ワーカーの働き方と対策



- 第31回 人間らしく働くための九州セミナーin北九州現地実行委員会
- 事務局／31kai.kyushusemina@gmail.com



第31回

人間らしく働くための九州セミナー in 北九州

人間らしく働くための九州セミナーとは

「人間らしく働くための九州セミナー」(以下、九州セミナー)は、1990年6月、働く人びとのいのちと健康をまもる学習と交流の場として「人間らしく働くために 労災職業病九州セミナー」としてスタートしました。2010年の第21回大会からは、運動の発展とともに現在の名称に変更し、一昨年の長崎開催で30回を数えました。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、昨年の開催は延期とし今回は31回となります。

九州セミナーは、労働者・労働組合、職場組織、患者、医療機関や弁護士、学者・研究者などの連携で働く人びとの健康問題に取り組む運動です。九州各地の職場・職域で1年間を通して働く人びとの健康問題について「学び・調査し・行動する」活動(セミナー運動と呼称)を行い、毎年秋の本集会で九州各地の仲間が一堂に集い、成果の報告に学び合い新たな運動に繋げています。

今回の基本コンセプト “コロナ禍で働く人びとの健康権”

新型コロナウイルス感染時代は、働き方・雇用関係や社会保障を中心に働く人びとの権利や健康に関する様々な問題点が噴出しています。全世界的にも経済生産性を第一に進めてきた新自由主義的経済政策のひずみが顕著に表れ、新型コロナウイルス感染と被害に格差社会が大きく影響しています。社会を支えている医療・介護、小売り業、物流、清掃などのエッセンシャルワーカーの働かされ方・働き方に注目が集まっています。

医療現場では保健所機能などの公衆衛生機能や医療介護供給体制の縮小・削減が、当該職場の労働者の奮闘にもかかわらず新型コロナウイルス感染対策を困難にしています。さらに看護・介護などのエッセンシャルワークや非正規労働は女性労働者が多く、新型コロナウイルス感染の社会的困難がジェンダーバイアスを持っています。また大幅な景気の後退や休業・時短要請に基づく解雇や大幅な収入減が深刻な状況となっています。とりわけ派遣や短時間勤務といった非正規労働者、さらにフリーランス・自営業などの「雇用によらない働き方」をしている労働者に新型コロナウイルス感染の影響が直撃しています。

いま100年に1度と言われるパンデミックは、新自由主義的な働かされ方・働き方の矛盾を一挙に顕在化させており、コロナ禍で働く人びとの健康権は極めて重要な課題となっています。またポスト・コロナ時代の働く人びとの健康権を展望する必要があります。

一般演題募集テーマ

- コロナ禍における労働の実態
- コロナ禍での労働安全衛生活動
- コロナ禍における格差と貧困の進行
- 労働災害と補償について

■ 一般演題のエントリー締切／8月20日(金)まで

■ 一般演題原稿のデータ締切／8月30日(月)まで